

# 阿波の藍にふれてみよう



## 藍住町歴史館 藍の館

天保～明治時代に隆盛を極めた藍の豪商・奥村家の屋敷を利用した藍の博物館。13棟ある建物はすべて県指定有形文化財という歴史的な藍屋敷です。館内では、藍の栽培から加工、流通までの24過程をミニチュアで再現し、わかりやすく解説。農具や民具、貴重な藍染めの古布、藍の現代作品も展示しています。東寝床では藍染体験



(ハンカチ  
540円～、所  
要約20分)も  
できるので、  
気軽に参加し  
てみましょう。



歴史を感じさせる藍屋敷

**DATA** ☎088-692-6317 住所／板野郡藍住町徳命字前須西 交通／JR勝瑞駅から車で10分 開館／9時～17時(体験の受付は16時まで) 休み／火曜(祝日の場合は開館)、年末年始 入館料／大人300円、中・高生200円、小学生150円 駐車場／約60台



「作品には染めた人の性格やその日の体調が出るんですよ」とスタッフ



## 美馬市観光交流センター

吉野川の水運を生かした藍商いで栄えた脇町のうだつの町並みにある施設で、観光交流室、藍染めや和傘製作体験ができる工房、喫茶を備えています。ここでは上板町の佐藤阿波藍製造所の染を使った「天然灰汁発酵建て」による藍染めを行っており、工房の見学や体験ができます。阿波藍の歴史や製法、藍にまつわる話を交えながら、スタッフがていねいに指導してくれます。その口調やまなざしから藍への愛情が伝わってきて、こちらまであたたかい気持ちになります。ハンカチ800円～など約1時間で完成。染めたいものがあれば持ち込みもOKです。事前に予約を(☎ 090-3188-3711)。

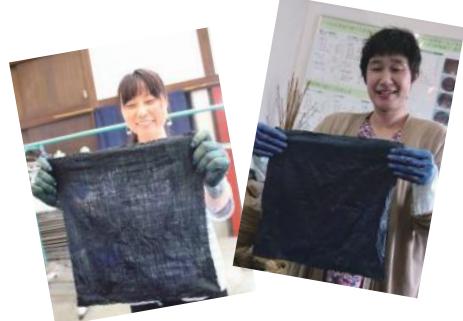


**DATA** ☎0883-53-8599 住所／美馬市脇町大字脇町45番地1 交通／JR穴吹駅から車で約8分 開館／9時～17時 休み／第2水曜、年末年始 入館料／無料、見学無料 駐車場／道の駅藍ランドうだつ駐車場を利用(約45台)

## ◆◆◆ 阿波藍の歴史 ◆◆◆

阿波藍の起源は平安時代、徳島の山岳地帯で阿波忌部氏が織った荒妙という布を染めるために、栽培が始まると伝えられています。その後、藍づくりは吉野川の下流域に広がり、蜂須賀公の保護・奨励政策のもと、隆盛を極めました。阿波藍は、その品質が高く評価され、阿波藍を「本藍」、他の地方の藍を「地藍」と呼んで区別されたほどでした。最盛期の1903年(明治36年)の藍の作付け面積は15000haに達しましたが、その後、安価なインド藍や合成染料の輸入によつて明治後半には急速に衰えていました。

徳島市の藤本さんは家族で参加。玄関、車の助手席、会社のデスクなど思い思いの場所で布を育てました。まおちゃん(5歳)の布もほら、ここに!



原料となるタデ藍。栽培から加工まで気の遠くなるような工程を経て、阿波藍がつくられます



7月31日にはリケツさんが来日し、四国大学内の藍染研究施設「藍の家」でワークショップを行いました

## 徳島県立 阿波十郎兵衛屋敷

阿波人形浄瑠璃の上演が観光客に人気の阿波十郎兵衛屋敷。ここで人形浄瑠璃と吉野川、阿波藍の魅力を満喫できる「徳島じょうるりクルーズ」を開催しています。

新町川を守る会の「吉野川クルーズ」と連携して、新町川水際公園から船で阿波十郎兵衛屋敷へ。川面から見る水都の景観や吉野川の雄大さに胸が高鳴ります。農村舞台風の上演館で人形芝居を見学し、



『傾城阿波鳴門』のモデル・板東十郎兵衛の屋敷跡を利用。上演館では毎日、人形芝居を鑑賞できます



昼食の後、路線バスで移動し、藍染工房ルアフで藍染めを体験するという欲張りコースです。「徳島じょうるりクルーズ」は平成30年度は4～10月の毎週日曜に開催。4日前までに予約が必要。料金は大人4000円、小学生以下3200円(クルーズ乗船料、施設入場料、昼食代、藍染め体験料、保険料を含む)です。詳細は下記まで問い合わせを。

**DATA** ☎088-665-2202 住所／徳島市川内町宮島本浦184 交通／JR徳島駅から車で約15分 受付／9時30分～17時